

私立大 定員割れ大学数は3年連続で減少

河合塾

2019/8/13

日本私立学校振興・共済事業団がこのほど2019年度の私立大学・短期大学の入学志願動向の調査結果を発表した。志願者数は大学で増加、短期大学で減少した。なお、入学者数が入学定員を下回る定員割れの学校数は、大学では3年連続で減少した一方、短期大学では昨年引き続き増加した。以下、調査結果から浮かび上がった2019年度入試の特徴を振り返る。

■私立大の延べ志願者数は7年連続増加

2019年度の私立大の延べ志願者数は4,425,625人で、前年より約26万7千人増加（前年比106.4%）した【表1】。高卒者数は減少傾向である一方で、私立大の延べ志願者数は2013年度以降増加が続いているのは、受験生一人あたりの出願校数の増加が要因である。近年、受験料割引や一度の出願で複数学部・学科を併願できる仕組みの導入が広がってきた。今春はこれに加え、難化を警戒した安全志向が出願校数増加に拍車をかけた。私立大では入学定員超過に関連する補助金不交付の基準などが2016年度以降の3年間で段階的に厳しくなっており、2017・18年度の入試では、都市部の大規模大を中心に合格者数が大きく減った。これにより、出願校数を増やす、一つ下の志望校を選択するといった動きが目立ったのが今春入試の特徴であった。

2019年度の合格者数は1,250,373人となり、前年から約3万9千人増（前年比

103.2%）と3年ぶりに増加に転じた。先述したように、過去2年の入試では合格者数を大きく減らす動きがみられたが、2018年度入試までに入学者数の適正化を済ませた大学もあったためである。

私立短期大の志願者数は前年より約3千人減の72,587人であった【表2】。短期大は今春も4校の募集停止により入学定員は約2千2百人減少したが、入学者数はそれ以上に高い割合で減少しており、定員充足率は87.2%と前年からさらにダウンした。

■定員割れ大学は16校減、194校に

【グラフ3】は私立大の定員割れ学校数の推移である。

定員割れ大学の割合は2000年代前

【表1】私立大入試の実施状況

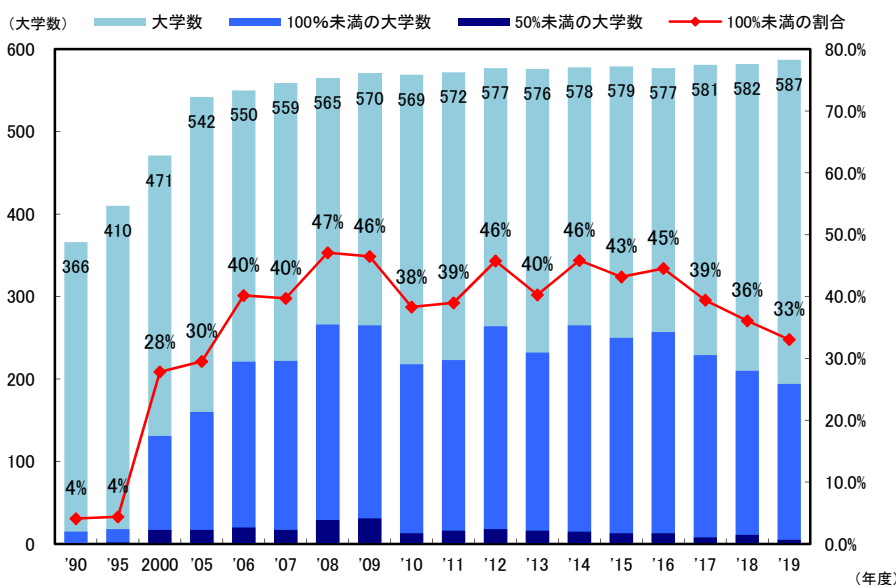
年度	大学数	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
10	569	450,816	3,178,078	3,062,895	1,054,804	489,030	108.5%
11	572	452,997	3,210,052	3,091,333	1,079,546	481,959	106.4%
12	577	455,780	3,198,128	3,074,603	1,117,758	474,893	104.2%
13	576	458,456	3,390,069	3,266,422	1,147,178	483,957	105.6%
14	578	460,251	3,464,428	3,329,843	1,195,738	477,630	103.8%
15	579	463,697	3,513,499	3,376,430	1,241,262	487,064	105.0%
16	577	467,494	3,629,273	3,489,799	1,245,865	488,210	104.4%
17	581	477,662	3,882,572	3,732,227	1,238,559	499,677	104.6%
18	582	484,986	4,158,500	3,999,537	1,211,515	497,778	102.6%
19	587	487,065	4,425,625	4,246,911	1,250,373	500,083	102.7%

※日本私立学校振興・共済事業団資料より(表2～表6も同様)

【表2】私立短大入試の実施状況

年度	大学数	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
10	344	75,166	105,458	103,552	84,222	68,305	90.9%
11	338	72,369	102,701	100,580	79,858	64,862	89.6%
12	330	68,899	96,664	94,681	74,918	60,678	88.1%
13	324	66,564	98,087	96,011	75,077	61,296	92.1%
14	320	64,664	93,377	91,398	72,672	58,561	90.6%
15	315	62,464	89,349	87,680	71,585	57,951	92.8%
16	311	61,251	83,116	80,684	67,381	55,171	90.1%
17	304	59,116	78,338	76,130	64,244	53,389	90.3%
18	301	58,161	75,631	73,494	61,904	51,214	88.1%
19	297	55,885	72,587	70,384	59,531	48,705	87.2%

【グラフ3】私立大 定員割れ学校数の推移



半には約3割で推移していたが、2006年度から上昇ははじめ40%台後半となった年もあった。直近では定員割れの割合は3年連続でダウンしており、今春は33%にまで下降した。私立大が難関大を中心に難化しているという意識から、再挑戦を選ばず第2志望、第3志望の大学に入学した受験生も多かったのではないかと。定員充足率が50%未満となった大学数は、前年から6校減少して5校となった。

一方、私立短期大の定員割れ学校数は昨年より16校増加の228校となった。定員割れ短期大の割合は全体の76.8%を占めている。短大の定員割れの割合は年々上昇傾向にあり、4年制大学とは対照的な厳しい状況が続いている。

■定員充足率は大規模大、都市部を中心に100%に近づく

【表4】は定員充足率を大学の規模別にみたものである。入学定員2百人を境に、定員規模の大きい大学群では充足率が100%を超えている一方で、規模の小さい大学群では定員割れとなっている。とくに百人未満の大学群では充足率が低く、学生確保に厳しい状況が続いている。なお、前述の入学定員超過率の厳格化の影響が大きいのは、入学定員1千人以上の大学である。定員1千人以上の大学群ではいずれも定員充足率は是正されてきており、1千5百人以上3千人未満の大学で充足率は昨年の105.0%から102.6%とダウンした。3千人以上の大学では充足率が98.8%と2年連続で100%近くとなった。

地域別では、東京、京都・大阪の2地区で充足率は101%台となった【表5】。両地区とも定員超過のペナルティの基準がより厳格な大規模大が集中するため、充足率も他地区に比べ100%に近い数値になっている。一方、東京近郊の北関東で109.1%となったのをはじめ、南関東、北陸、九州などの地区で充足率はやや高めとなった。また、中国、四国では充足率は100%を割り込むが、両地区とも前年の充足率と比べるとアップしており、状況の改善が見られる。

【表4】私立大 規模別 定員充足率

入学定員規模	大学数	入学定員	入学者数	定員充足率
100人未満	35	2,565	2,436	95.0%
100人以上200人未満	107	15,177	14,929	98.4%
200人以上300人未満	87	20,880	21,508	103.0%
300人以上400人未満	68	23,440	24,305	103.7%
400人以上500人未満	39	17,127	17,528	102.3%
500人以上600人未満	42	22,555	24,547	108.8%
600人以上800人未満	46	31,462	34,212	108.7%
800人以上1,000人未満	31	28,067	30,670	109.3%
1,000人以上1,500人未満	52	65,022	67,904	104.4%
1,500人以上3,000人未満	56	115,133	118,103	102.6%
3,000人以上	24	145,637	143,941	98.8%
合計	587	487,065	500,083	102.7%

【表5】私立大 地域別 定員充足率

地域	大学数	入学定員	入学者数	定員充足率
北海道	24	10,950	11,037	100.8%
東北	33	13,433	13,544	100.8%
北関東	24	11,289	12,316	109.1%
南関東(東京除く)	75	54,174	56,977	105.2%
東京	115	180,659	184,115	101.9%
甲信越	21	5,428	5,555	102.3%
北陸	12	5,383	5,703	105.9%
東海	64	44,211	46,035	104.1%
京都・大阪	76	81,403	82,781	101.7%
近畿(京都・大阪除く)	44	27,216	28,097	103.2%
中国	36	17,835	17,553	98.4%
四国	8	4,180	3,822	91.4%
九州	55	30,904	32,548	105.3%
合計	587	487,065	500,083	102.7%

■文系は志願倍率上昇続く、歯学・薬学・家政学などの資格系では定員充足率が100%を割り込む

【表6】は、学部系統別にみた動向である。志願倍率をみると、前年と比べて1ポイント以内の変動におさまる系統が多いなか、理・工学系では志願者が増加し前年から1.1ポイント上昇の12.9倍となった。一方、医学では、他系統と比べて群を抜いて高い志願倍率ではあるが、志願者数の減少に伴い前年から1.8ポイントダウンした。また、歯学、薬学、家政学といった資格系の系統では充足率が100%を下回っており、低調な人気となっている。

2018年度入試では高い人気を示した人文科学系、社会科学系などの文系学部では、2019年度入試においても志願者数は増加したが、合格者数も増加したため倍率の上昇は小幅にとどまった。

【表6】私立大 学部系統別の入試動向

学部系統	学部数	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	定員充足率
医学	31	4,101	111,002	4,127	27.1	100.6%
歯学	17	2,063	10,115	1,713	4.9	83.0%
薬学	57	11,356	89,223	10,613	7.9	93.5%
保健系	237	35,861	188,548	36,159	5.3	100.8%
理・工学系	151	61,812	796,668	63,263	12.9	102.3%
農学系	22	8,409	80,940	8,641	9.6	102.8%
人文科学系	244	68,694	645,482	71,076	9.4	103.5%
社会科学系	515	169,074	1,665,089	175,002	9.9	103.5%
家政学	83	17,153	75,721	17,070	4.4	99.5%
教育学	101	17,603	119,094	17,735	6.8	100.8%
体育学	11	5,040	14,590	5,311	2.9	105.4%
芸術系	58	14,447	52,851	15,079	3.7	104.4%
その他	287	71,452	576,302	74,294	8.1	104.0%
合計	1,814	487,065	4,425,625	500,083	9.1	102.7%